

＝ほとんどの就業時間帯で、〈危険〉・〈嚴重警戒〉＝

対策の基本は「熱中症を一件も出さない」ことです！

横浜では、熱中症が昨年の5倍

横浜市では、記録的な猛暑で、熱中症による救急搬送数（5月1日～7月14日の累計）は271人にのぼり、昨年同時期に比べて約5倍と急増しています。全国的にも7月4日～10日の週の熱中症とみられる症状で救急搬送された人は、4520人で前年同期（1040人）と比べると4倍強に上がったことも報道されています。

特に厳しい作業環境が強いられる造船の職場では、具体的な緊急対策が必要です。

携帯型熱中症計で

ほとんどの就業時間帯で〈危険〉、〈嚴重警戒〉

ある職場を携帯型熱中症計によって調査したところ、7月5日の9時から夕方5時までの時間はすべて〈危険〉の表示になり、7月4日～7月8日の各時間帯はほとんどが〈危険〉と〈嚴重警戒〉でした。この時期の横浜での気象庁発表の最高気温・湿度は次のとおりです。7月以降も引き続き高温状態が予想されます。

いまの職場状況は、ただちに熱中症対策が必要です。

横浜 7月の気温・湿度

日	平均	最高	平均
	気温℃	気温℃	湿度%
1	27.6	32.5	72
2	26.8	31.1	79
3	27.5	31.6	76
4	28.1	32.4	75
5	27.7	32.9	72
6	27.8	31.9	66
7	26.0	29.0	79
8	27.8	30.7	75
9	27.9	32.5	79
10	28.3	33.0	73
11	28.3	33.0	75
12	28.1	32.6	76
13	28.0	32.4	71
14	28.3	33.2	67
15	28.6	34.0	67
16	28.8	33.1	72

「安全5原則」からも具体的な対策を

「安全5原則」は、「危険な作業はしない、させない」、「災害要因の先取り」を決めています。いまの職場状況は〈危険〉な状態であり、熱中症を1件も出さないという基本にたった具体的な対策が必要です。

熱中症予防には、働く場所が高温にさらされることを防ぐ必要があります。早急に、安全衛生管理者を中心にプロジェクトチームを作り、大型クーラーやサンネットを十分に準備して、職場環境改善の手立てをとることで、その作業を作業者にまかせるようなことがあってはなりません。

次のことは今すぐ出来ることです

- ☆作業場所に誰でもすぐに見られる温湿度計を設置する
- ☆作業場所で気温が30℃を超えたら作業を中止し暑さ対策をとること
- ☆作業場所に冷房設備の整った休憩場所（プレハブ小屋など）を設け、スポーツドリンクなどを用意し、横になることのできる広さと、着替えなどの保管スペースを確保すること
- ☆デッキに散水して直射日光を遮断し、鉄板を冷やす対策をとること
- ☆熱中症による休業は公傷扱いにする

2011年7月

日本共産党石川島委員会 造船支部